

令和7年度 新宿区立新宿中学校 学校経営方針

1 教育目標	
人間尊重の精神を基に、国際的視野に立った人間性豊かな人を育成する。	
◎自ら学ぶ人	
◎たくましく生きる人	
◎地域社会を担う人	
2 目指す生徒像	
●目標をもち、向上心を忘れず、主体的に学び続ける生徒（確かな学力） 夢	
●相手を尊重し、感謝の気持ちを忘れず、最後まで責任をもちやり遂げる生徒（豊かな心） 命 ・ 約束	
●進んで心身を鍛え、たくましく生き抜く力を身に付ける生徒（健やかな身体）	
3 目指す学校像	
●安心安全で、厳しさの中にも心温まる活気に満ちあふれた学校	
●個に応じて能力を伸ばし、感動を与え、自信と誇りをもたせる学校	
●保護者・地域との連携を深め、信頼に応える学校	
4 目指す教職員像	
●「チーム新宿中」の一員として協働できる教職員	
●使命感をもち、専門性の向上に努める教職員	
●相手を尊重し、生徒・保護者・地域から信頼される教職員	
5 目指す授業像	
●「教える」から「学ぶ」への転換を目指す授業	
●生徒の問いと意欲を引き出し、自ら学ぼうとする生徒を育成する授業	
●個別の探求が組み込まれている授業	
6 学校経営の基本方針	
●生徒の学力・心・身体をバランスよく育成する。	
●安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。	
●観察・状況判断・意思決定・実行のサイクル（OODA）で、組織的に学校を運営していく。	
7 令和7年度重点取組	
①「教える」から「学ぶ」へ	●生徒が主語になる授業への転換。生徒が何を学ぶか
②リスペクトが見える学校づくり	●言葉、呼称、接遇など、隅々まで配慮した人権感覚の醸成
③「学び」を継続させる学校づくり	●登校支援（不登校対策）を組織的に行う
④安心・安全な学校づくり	●生徒が安心して過ごせる教育環境の実現
⑤働き方革命	●仕事と理想のライフスタイルとの両立を実現

学校経営の基本方針に対する具体策

◎生徒の学力・心・身体をバランスよく育成する。

① 「教える」から「学ぶ」へ 一斉授業から、生徒自身が学ぶ授業への根本的転換

●全教科の授業を、生徒自らが学ぶ授業に、意識的に転換する。

●授業のプロセスを以下の３段階とし、実践的に取り組む。

(1)ガイダンス（生徒が課題を把握したり、学習の計画を立てたりする）

(2)探究（課題について個人で取り組んだり、協働的に取り組んだりする）

(3)まとめ・振り返り（発表したり、評価し合ったり、身に付いた力を言語化したりする）

●全授業で ICT を活用し、学習の効率化を図る。

●読書活動を推進し、読解力を高めたり、読書に親しんだりする姿勢を育成する。

●体験学習を充実させ、豊かな人間性や価値観の形成及び課題発見や解決能力の育成を図る。

●キャリア教育により自己理解を深めさせ、主体的に進路を選択・判断できる能力を育成する。

●新宿区学力定着度調査等の結果を分析し、授業改善と教育活動の検証に取り組む。

●ボランティア等を活用した放課後学習支援を計画的に実施し、基礎学力の向上を図る。

●新宿区教育ビジョンに即し、漢検・数検・英検などに積極的に取り組ませ、生徒の学習へのモチベーションを高める。

② 人権尊重（リスペクト）を基盤とした、心の育成

●お互いに尊重し合う学校・教室・授業を実現させるために、全教育活動において「リスペクト」の精神を徹底し、言葉・呼称・接遇など、隅々まで配慮した人権感覚を醸成する。

●道徳科授業を充実させ、「考え、議論する道徳」の授業を実践する。

●生徒会活動・学級での係活動・部活動などの協働作業における自治活動の推進を図り、生徒が自他の特性を認め、お互いに成長できるよう努める。

●特別支援コーディネーターを中心とした組織的な支援体制を充実させるとともに、「サポートルーム（まなびの教室）」を積極的に活用し特別支援教育の推進を図る。

③ 健康な身体の育成

●全教職員で感染症対策やけが防止に取り組み、安心・安全な教育活動を実践する。

●保健体育を男女共修とし、バランスよく体を動かすことを学ばせる。

●新宿区の施策を活用し、運動への関心を高め、運動の日常化を推進し体力の向上を図る。

●給食の時間、家庭科の授業等を通して、バランスのとれた食習慣を身に付けさせる「食育」を推進する。

●学校安全指導計画に基づいた「安全教育」の充実を図る。

◎安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

① 当面する教育課題への対応

- 「新宿中はいじめを許さない」という共通認識のもと、いじめが発生した場合は「いじめ対策委員会」を中心とした学校組織として対応する。
- ソーシャルネットワークサービス（SNS）にかかわる課題、薬物乱用防止等、最新の状況を踏まえた適切な指導を行っていく。
- 登校支援（不登校対策）に学校組織として取り組み、全生徒が社会とつながっている状態を目指す。

② 地域協働学校としての取り組み＜地域が参画する学校運営＞

- 地域協働学校として、学校運営や学校評価、学校支援活動についての協議を通し地域・保護者の参画を促し、地域に根ざした教育活動の充実を進める。
- 学校運営連絡協議会で、学校運営上の課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を推進する。

③ 信頼を高めるための取り組み

- 危機管理への対応として
 - ・校内における報告・連絡・相談を徹底する。
 - ・問題行動には、迅速かつ組織的な対応を徹底する。
 - ・食物アレルギー等、管理及びチェック体制を遵守し、確認を徹底する。
 - ・学校から保護者・地域等へ積極的に情報発信し、法令遵守を果たす。
- 教職員の服務規律の遵守について
 - ・体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報流出、その他信用失墜行為を厳に戒め、保護者や地域住民からの信頼を損なわないように留意する。
- 教育環境の整備・充実
 - ・学校全体で適切な言語環境を整え、教職員が自ら範を示すよう言動を徹底する。
 - ・掲示物等については、ユニバーサルデザインを取り入れ、生徒の集中力を高め、人権保護や多様性を尊重する視点に配慮する。
- 学校として必要な情報の収集と適時性のある情報の発信
 - ・学校の教育活動を円滑に進めるための情報収集と適時性のある情報発信を行い、学校の教育活動への安心感と信頼感を獲得する。
- 接遇の改善
 - ・保護者や地域の方など、学校に寄せる気持ちを真摯に受け止め、誠実・丁寧な対応を行なう。
- 教職員の健康管理
 - ・ワークライフバランスの向上を推進し、業務の効率化・定時退庁などを実践する。生徒の充実した教育活動には、教職員の健康が不可欠なことを認識させる。

◎OODA（観察・状況判断・意思決定・実行）をもとに、全教職員で組織的に学校を運営していく。

① 観察・状況判断・意思決定・実行のサイクルを確実に行うために

- 起こった事象や予想される事象について、複数の目で確実に見取り、適切な状況判断を迅速に行い、段階に応じた意思決定のプロセスを経たうえで、組織的に実行することを意識する。
- 慣例や思い込みにとらわれず、組織的に学校を運営していくことを意識する。

② 全教職員で組織的に学校を運営するために

- 提案・実践が主体的に行われるよう「情報の共有」を意識した組織運営を行う。
- 教職員が協力し、切磋磨し、個々の資質向上を図り、より良い教育活動の実践に結び付ける。
- 校内研修を活用し、授業改善や生徒理解、喫緊の教育課題などについて組織的に研鑽を行う。

③ 誇りのもてる新宿中の教育の創造

- 学校評価を活用し、課題と成果の共有を図る。また、学校関係者の学校への主体的なかかわりを促し、教育活動の改善に取り組んでいく。

④ チームとしての生徒指導

- 生徒理解と信頼関係による指導
 - ・リスペクトの精神をもち、生徒への共通理解と共通実践を基本に指導にあたる。
 - ・日々の活動、実践を通して、信頼関係を構築することを大切にする。
 - ・生徒の気になる様子は、保護者等に連絡するとともに、連携・協力して指導にあたる。
 - ・「hyper-QU」を活用し、生徒理解を深め、学級経営、学年経営の一層の充実を図る。
- 生徒が取り組む過程を評価
 - ・生徒には失敗したことから学ばせ、次の機会に活かせるように指導する。
 - ・プロセスを適切に評価する。生徒の創意工夫や継続的な取り組みなどを大切にする。
- 自信と自覚を深める指導生徒が取り組む過程を評価
 - ・生徒に困難を乗り越えること、課題を克服していくことで自信と自覚を深めさせる。
- 義務教育最後の3年間を担当するという使命感をもった取り組み
 - ・一社会人として卒業する生徒が身に付けるべき資質とは何かを考え、各教科や教育活動を通して、人を育てることの使命感をもって指導にあたる。

⑤ 校務の見直しによる働き方革命

- 校務を見直し、選択と集中の意識を徹底する。
 - ・保護者や地域の方にも説明し、スリム化省力化できるところを追求する。
- 「勤務時間内にできること」に最大限注力し、残業を減らす意識に転換する。
 - ・休日出勤や、常態化している残業に支えられている校務をなくす。
- 教員自身が、仕事とライフスタイルの両立を目指せるよう、環境を整える。
 - ・育業や看護休暇、有給休暇などが取得しやすい職場風土を醸成する。